

JAITI 66

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

◆URL <http://www.jaiti.org/> ◆E-MAIL jaiti@janis.or.jp

JAITIとは、「公益財団法人日本農業研修場協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの頭文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる根幹」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発 行 公益財団法人 日本農業研修場協力団
事 務 所 〒386-0502 長野県上田市武石沖605-5
TEL 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583

今日のジャイチ

誰もが明るい年となることを願った新年は、能登半島地震、航空機事故と受難の幕開けとなってしまうました。

折しも、コロナ禍からようやく抜け出して久しぶりに家族揃っての正月を迎えていた矢先のこと、余りにも酷さを感じえません。

尊い命を奪われた皆様、ご家族、被災されました方々に心から哀悼とお見舞いを申し上げます。また、厳寒と積雪の中で災害の復旧にご尽力されている皆様に

敬意を表します。

災害は何時どこで起きるか分からないと言われるまでも、4年ぶりとなるジャイチツアーでネパール国カトマンズに滞在していた昨秋の11月3日の深夜のこと、ネパール西部で大きな地震があり157人が死亡、けが人も多く出たようです。

カトマンズからは約300キロ離れた地域だったので揺れを感じた者は少なく、地震の話題も広がっていないように感じました。

M7.8の大地震が襲った



▲4年ぶりとなるJAITIツアーでは、ネパール子どもたちと触れ合いの時間を持とうと新聞紙でカプトの折り紙に挑戦しました。女性参加者の優しい手ほどきで全員が見事に折り上げてくれました。(カウレデビ・カカニ・ブライター学校の5年生の教室にて)

2015年から8年が経過し、人々の暮らしも平常に戻ってきてはいるようですが、ネパールでは、地震が頻発するものの、耐震性の低い家屋が多く、当時、使用危険として政府が赤紙を張った建造物などが、未だに使わざるをえないものも散見します。

寮が、部屋の入り口の寸法と今までのベッド幅が合わず搬入ができず、使用されないでいたことから、この問題の解消のためジャイチからの支援金により14台の鉄骨製二段ベッドを搬入することができ、学生たちの入所が始まっています。

このように自立と公立化によつてのメリットが見られるようになってきました。

職員、生徒たちをはじめ学校関係者の皆さんが総出で歓迎行事が催され、その席で感謝状の贈呈が行われました。

◆公立学校に移管したカカニ・ブライター学校、レカリ・バシファント学校は共に学校職員やPTA、学校運営委員会などの積極的な取組が進められており、村や州教育事務所と良好な関係を保ちながら、様々な教育施設の整備に努めています。



▶部屋6人が使用できる二段ベッドの搬入が終わり、ようやく寮生活が始まりました。

私たちは JAITI オフィスにこの場を借りて感謝の意を表したいと思います。JAITI はこの学校の母体機関として献身しており、最高水準を永遠に維持するというゆるぎない精神とともに、当校の完成に向けて日本の支援者や寄附者との連携も良好で称賛に値します。

私たちは、この学校子どもたちの未来を明るくするために非常に貴重な奉仕を捧げてくださった JAITI とすべての支援者に心から感謝したいと思います。私たち学校家族は本当に感謝しており、JAITIを常に心に留めています。私たちは日本とネパールの人々の間の友好的な関係を強化するための貢献を永遠に願っています。

レカリ・バシファント学校

▶レカリ・バシファント学校長と学校運営委員会会長から贈られた感謝状 右は要約文

カカニ・ブライター学校では、国連WFPの支援によつて給食調理施設の建設が行われ、生徒たちへの給食が始まりました。(2頁参照)

一時は生徒数の減少が心配された当学校ですが、こうした取組の積み重ねにより保護者からの理解もあつて、現在356人の子どもたちが入学し、勉学に励んでいます。

レカリ・バシファント学校では、在ネパール日本大使館の支援により建設された学生

学校の皆さんから感謝状

ジャイチがネパール国で教育支援活動を継続して30数年が経ちました。支援先のカカニ・ブライター学校、レカリ・バシファント学校の学校からは常日頃感謝の言葉をいただいています。今回のジャイチツアーでの学校訪問の際にも教



▶レカリ・バシファント学校長と学校運営委員会会長から贈られた感謝状 右は要約文

ジャイチネパールから

カカニブライター学校で 給食調理施設の建設

ネパール国内では学校給食の導入が始められていますが、ブライター学校においても新入生徒数が増加していることもあり、生徒たちに適切な給食を提供するための給食調理室の建設が必要になりました。

この問題の解決に向けて一昨年の11月から12月にかけてカカニ村の育成部、少年およびスポーツ課により検討が進められ、世界食糧計画機関(国連WFP)との協議により建設が決ま



校舎の東側に併設して建設された給食調理施設キッチンハウス



キッチンハウスの中には調理台や調理器具、食器類が整えられ、壁には調理の仕方なども図示されていて、生徒たちの学びの場にもなります

建設にあたっては国連WFPの支援資金および技術的な協力を受けて、昨年5月から工事が行われ約7カ月かけてようやく施設が完成しました。

この新しい給食調理施設(キッチンハウス)には、調理、配膳、給水設備、食器類から食材保管する倉庫も設けられており、11月から生徒たちに向けた給食の調理が始まりました。

国連WFPでは、「学校給食を進めることによって子どもたちの栄養状態や健康が改善されるだけでなく、出席率や成績向上にもつながり、また、家庭が子どもたちを毎日学校に通わせる強いきっかけにもなる」としています。

ブライター学校では、今後ともこうした施設を整備して教育環境を充実していくことにより、自立した学校づくりに努めていきます。



新しく設置された施設で調理した給食を楽しむ生徒たち。この日は、教室の外に出て暖かな陽射しのもとでおいしくいただきました

ブライター学校校長から

学校は順調に進んでいきます。私たちはできる限りのことをしています。現時点では大きな問題はありません。いくつかの問題は私たち自身と地元の基金によって解決しています。

しかし、政府からの予算による人材が不足していることから、民間の人材を雇用しているため財政上の問題はあります。また、生徒数の増加により教室が不足しており、可能であれば新しい建物の建設にも努める必要があります。私たちの母体として、JAITI Iからの更なる支援、提案、監督訪問を期待しています。

日本からの訪問者を歓迎

レカリ・バシファント学校では、去る11月2日と3日に、JAITIツアーで訪問された皆様を歓迎する行事を行いました。

この訪問に際して様々なレベルの会議や文化プログラムが企画されました。生徒、教師、保護者、学校運営委員会、そして地方自治体の代表者とのこのよう場を持つことは、当学校が質



校門では民族衣装に着飾った生徒たちがお出迎え

の高い教育と機知に富んだ方向に向けて決定するのに役立ち、訪問者と学校家族との良好な関係を築く機会にもなっています。

また、こうした訪問では、教職員、生徒たちは貴重な言葉や提言を励みとし、生徒と教師の間で日本語コミュニケーションを実践するの役に立っています。

今春、ネパール教師奉仕委員会から任命され新しい小学校教師として迎えた本校の卒業生でもある若くて精力的な教師の一人ラム・マニアリヤル先生は日本で少なくとも5年を過ごした経験から、日本語をもつと使えるように最善を尽くしてくれており、毎日朝と帰宅前の授業時間外の約30分を使って日本語、基本的な動作(ジェスチャー)

を生徒たちに教えています。今回のこうした歓迎行事の活動はとても楽しく、私たちの心と魂をリフレッシュさせてくれています。

レカリ・バシファント学校 校長から

JAITIFAMILYとしてネパール事務所との調整と協力は、学校に対して非常に緊密であり、私たちは親愛なる生徒や教師の学業成績の向上のためにも保護者の支持を得ています。

教職員、学校関係者、そして大切な生徒たち全員がJAITIIに感動し、感謝の気持ちを持っていきます。皆さんの訪問を心から期待しています。



みずすホールでは、科学の学習の成果を訪問した皆さんに紹介(ビム・ラル・グルン)

ご協力有難うございました

2023年6月26日〜2023年12月27日迄 順不同敬称略

この六ヶ月の間に、左記の方々より、ご支援を戴きました。お礼申し上げます。

◆ 人的協力

〈栃木県〉

マン・ババドール・シユレスタ

〈東京都〉

上野昌子、滝和美、田山豊實

〈長野県〉

ウツタム・タバ、小山田秀士・妙子、柿島明子、菊池健介、株式会社北澤土建、有限会社佐藤新聞店、田村由紀子、佳織、根岸厚次・真貴子、堀邦昌

〈愛知県〉

岡田福美、小園四男、白澤たつ子、村田あやみ、山内京子

〈海外〉

ネパール ホテルサンセット ビュー・アルジュン・シン／絃子・トラチャン

◆ 寄附金

〈北海道〉

内藤喜美子、服部昌男

〈茨城県〉

伊藤甫、長谷川秀雄、藤井秀雄

〈栃木県〉

森聖哉

〈群馬県〉

小坂橋靖幸、斎藤孝夫、島田寛治、高田貴子、堀越利通

〈埼玉県〉

齊藤節子、嶋田信子、常陸民生、吉澤竹男

〈新潟県〉

帯瀬光子、小森修

〈富山県〉

野原宏史

〈岐阜県〉

庄村敏

〈千葉県〉

相楽洋子、高橋節子、向井夏詩、吉田秀子、吉村芳江

〈東京都〉

池田照子、今井正史、大田原房子、小川金三郎・陽子、小川昌子、小野寺えり子、尾身恭子、鎌田はなよ、黒田秀基、河野節子、神長善次、須田清、中村千鶴、成宮博、西岡巖、野村明賢、正田英子、松田重箕

〈神奈川県〉

河津春子、小林みよ子、島田正義、十河三郎、松本素子、丸山進治・佳子

〈長野県〉

株式会社アサネット代表取締役 赤羽巧、稲垣勇一、白井千鶴子、内野倉千枝子、小山田秀士、金澤みち代、金子元昭、菊池健介、株式会社北澤土建北澤隆洋、清住宗廣、黒沢勇人、小林淳・展子、小林暁、五味あつ美、佐々木牧夫、田村由紀子、土屋信子、徳武敏幸、豊田かずい、長門郵便局、長野合同経理センター、箱山年子、舟木公栄、松久よし子、丸山敏和、丸山幸雄、宮下篤、柳澤利文、山口弘子、依田健一・五子

〈新潟県〉

帯瀬光子、小森修

〈富山県〉

野原宏史

〈岐阜県〉

庄村敏

〈愛知県〉

伊藤正裕、大森森次、岡本守弘、尾上昇、片岡日出夫、小出茂利、小園四男、佐藤昭男、白澤たつ子、滝本美恵子

〈和歌山県〉

中前孝啓

〈滋賀県〉

岡田千尋、西村敏、松延宏昭

〈兵庫県〉

小野道彦、新海泉、玉岡昇治

〈大阪府〉

北岡満

〈京都府〉

小林久恵

〈鹿児島県〉

西重正博

〈ネパール(直接)〉

小園四男、滝和美

◆ 寄付品

〈埼玉県〉 島田信子

〈千葉県〉

小宮芳子ほか1名、武藤やよい・貴子、吉村芳江

〈群馬県〉

高田貴子

〈東京都〉

小川陽子、尾身恭子、小山恵美子・ネパールの子どもたちに文具を届ける会、鈴木牧子、滝和美

〈神奈川県〉

加藤澄子、堀内フサ子

〈長野県〉

井沢永美、鹿教湯郵便局、菊池健介・道子、清住栄子、滝沢真理

〈愛知県〉

原田さち、藤井久生

〈滋賀県〉

岡田千尋

ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何時も心に留めて下さり、感謝申し上げます。

皆様方からのご寄附に対し、所得税法・法人税法上の優遇措置を受けることができます。以下に説明致しますので、今後ともご協力をお願い申し上げます。

ジャイチの基本的財源として

皆様よりいただいた寄附金を、ジャイチの公益活動を維持・継続していくための財源として、受け入れるものです。寄附金の用途・内容については、ホームページ記載の決算書等により、皆様にお知らせ致します。

その中より余剰資金が発生した場合は、今までどおり基金として繰り入れていきます。基金は、ジャイチの財源を安定させ、ジャイチの活動をよりいっそう強固な活動につなげることが出来ます。

所得税法、法人税法の優遇措置

公益財団法人は、すべて税制上の特定公益増進法人となり、寄附していただいた金額は、下記の寄附金優遇措置の対象となります。

- ①所得控除 その年中に支出した寄附金の合計額より2千円を差し引いた金額が総所得金額等、退職、所得金額又は山林所得金額より控除できます。
- ②税額控除 その年中に支出した寄附金の合計額より2千円を差し引いた金額の40%が所得税額から控除されます。(例 10,000円の寄附の場合 所得税が3,200円戻ります。)
- 上記優遇措置を受けるには基本、確定申告が必要です。**
(税法の改正等がありますので、詳細は税務署にお問い合わせください。)

郵便振替・銀行振込での募金

お振込先

- ◎郵便振替 00510-4-65434
- ◎銀行振込 八十二銀行 丸支店 (普)420577
- 座名 公益財団法人 日本農業研修場協力団

2023JAITI ツアー ネパールの農場と 学校訪問の旅が 行われました



▲学校訪問では、いつもマリーゴールドを主体とした花でのお出迎えです。それに訪問者に歓迎の意を表す「カタ」と呼ばれる布が首に掛けられます。バシファント学校校庭では、この時期、ヒマラヤ桜(背後の大きい木)のピンクの花が満開となりますが、今回はつぼみが膨らみ始めたところでした。

参加された皆さんから寄せられた感想文を一部ご紹介いたします。



ジャイチツアーに参加して
長野県上田市
小山田妙子

今回初めてネパールの旅に参加しました。

ジャイチ支援による幼・小中学校では、それぞれに支援された方々の名を冠した教室があったり、シャクナゲやその他の木が大木になっていたりして長年の支援活動が偲ばれました。子どもたちの手作りの花



▶バシファント学校の歓迎行事では生徒たちの民族舞踊の輪に入っ一緒に踊りました。

東やレイに民族舞踊、そして子どもたちの飛び切りの笑顔の歓迎を受け、童心に帰って一緒に踊ったことはとても楽しい思い出になりました。

灯りや暖房もない校舎に、皆サンダル履き、通路は急坂の山道を2時間もかけて通つてくると聞きました。ネパールの人たちは子どもの頃からこうして足腰を鍛えているからヒマラヤにも案内できるのかと感心してしまいます。

田舎の道はデコボコでバスは右に左に大きく揺れ、インドからのトラックが列をなし、すれ違う合間を二人乗りのバイクがすり抜け、ひやひやとすると同時にエネルギーギッシュな情景で

もありました。ネパールでは車の屋根に乗るのは違反ではないとのこと。真似をして乗ってみる元気な仲間もあり、通学途中の子どもや大人たちのちよつとびつくりした表情を横目に、宣伝カーにでも乗っている気分を手を振ったりしました。また、ニワトリや山羊たちに道を占領される時もありました。



▶カカニ・ブライター学校での園児たちの歓迎のダンス

ホテルのヒマラヤそばなど日本食、辛さを控えたメニューなど細かいところにご配慮いただきました。みずみずしい大根、イチゴ、きゅうり、ハヤトウリなどネパールの野菜や果物はとても美味しかったです。

帰りの空港では、真夜中の外国便にネパールから出稼ぎに行く人たちの長蛇の

2023JAITI ツアーの行程

- 11/1 成田空港からカトマンズへ
- 11/2 レカリ・バシファント学校訪問
歓迎行事に参加
- 11/3 レカリ・バシファント学校にて各教室で授業の様子を参観
- 11/4 マウンテンフライトでヒマラヤ山脈エベレストを空から眺望ナガルコット、世界遺産バク・ツプル見学
- 11/5 カカニ地区イチゴ農家訪問
- 11/6 カカニ・ブライター学校訪問
歓迎行事に参加
5年生の生徒たちと折り紙づくりで交流
- 11/7 カトマンズ市内世界遺産見学
- 11/8 カトマンズから成田空港へ

列ができていて農業や観光だけでは生きていけないこの国の現実を目の当たりにしました。

ヒマラヤの白い峰々、大木のクレマチスの赤とマリーゴールドの花の色、日本に留学中だという大学生や東京で働いていると流ちょうな日本語で話しかけてくれた若者たちの都会的な雰囲気など、ネパールは様々なことを考え感じさせてくれる国でした。

何度も訪れているという魅力の訳が少しわかったような気がします。楽しい旅をありがとうございました。

▼翌日のカカニ・ブライター学校訪問でカプトの折り紙交流のために材料(新聞紙)の準備と折り紙の教え方について打合せをする女性参加者の皆さん



▶ダマン峠のレストランの屋外テーブルでネパールの定食ダルバート(辛さ控えめに)で昼食



心に染みるネパール訪問



愛知県名古屋市長 山内京子

今回のツアー参加は、ネパールの人・風土との関わりを楽しみながら充実した8日間となりました。

レカリ・バシフアントとカカニ・ブライター学校は、カトマンズから車で5時間ないしは3時間かかりました。砂ぼこりのデコボコ道をいくつも迂回して山越え。千数百メートルの山が連なるその山の斜面に目を奪われました。高低差の大きい壮大な棚田がこちらこちらに広がっています。

散在する小村には数人の女・子ども・老人が集まっている姿をよく目にしました。山崩れで道路を修復する人力作業労働者を度々見ました。災害は反復されました。



▶ネパールの山肌広がる段々畑と棚田の風景。最近では荒廃農地も増えています

すが、こうして働くその賃金は大切な生活収入だそうです。車窓から見るネパールの人たちの生活に思いを巡らし、その生き抜く逞しさと知恵、根気よくやり抜く姿に胸が熱くなりました。

幼稚園(三歳から)と十年生(十五歳)までの在校生。子どもたちは胸の前で手を合わせ、大きな瞳で真つすぐ見て「ナマステ。」心に深く伝わる挨拶でした。



▶真剣に書き取りの授業に取り組む生徒たちの姿に感心

朝、ナムタール地区の村の中を走る車の屋根に乗せてもらい、道すがら車上から「ナマステ」と声掛けをすると、村の人々は作業の手をとめて振り返り、溢れんばかりの覇気のある挨拶が静かな山あいの村に飛び交いました。それは今日一日の無事を念じられているように伝わりました。

また、学校から帰宅する子どもたちと一緒に山路を歩けたことは思い出深いものになりました。山羊やニワトリ、牛が遊ぶ急斜面の山肌をほとんどの子どもたちはサンダル履きでの通学です。

カカニ地区の山並みは、見事なイチゴの段々畑が陽光を浴びて広がっています。ジャイチが初めて導入したイチゴ栽培がこの地域の特産品までに普及された技術指導に圧倒されました。

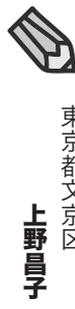
ネパールに飛んで、目に映るヒマラヤ山脈は絶対的です。マウンテンフライトで目の前に繰り広げられる山容は、素晴らしく美しい!! パノラマショー。一生涯のうちで真近かに見られた雄姿エベレスト8849m。



▶ネパールを象徴するヒマラヤ山脈。その中でも世界最高峰エベレストをマウンテンフライトで真近に望む

今回、この地を訪れ、ネパールの人と自然に秘められた豊かなエネルギーをひしひしと感じました。この豊かな力が将来を担う子どもたちを育て、今後展開するネパールに期待して注目していきたいと思っています。

ツアー参加者に恵まれ楽しい旅になりました。ありがとうございました。



東京都文京区 上野昌子

私が今回このツアーに参加したのは、「ヒンドゥー教の語る神々のいるヒマラヤ山脈をネパール側からも見てみたい」と思ったからでした。

もともとは長野愛の強い母がジャイチの長年の支援者ですが、私自身はその活動内容をほとんど知りませんでした。そんな私の印象に一番残っているのは、予想外なことにネパールの山奥の学校の子どもたちのキラキラした瞳でした。

他の国もそうなのかも知れませんが、田舎の子どもたちの朴とつさは驚きです。シャイで真面目で我慢強い。片道2時間、しかも急



▶カフトが折りあがった時の生徒たちの笑顔が素敵でした

勾配の山道をサンダル履き歩いて通ってくる子もいました。他の世界を知らないからだと行ってしまえばそれまでですが、あの生命力には感動しました。どの子もあふれる笑顔で、野の花で作った花束とレイで大歓迎です。

今回は子どもたちとの触れ合いの時間を持とうという事で、日本から持参してくれた新聞紙で折り紙式にカフトの作り方を伝えました。素朴な遊びですが、これもとつてもキラキラした顔で楽しそうに作成してくれました。

過去の歴史の中には、一時的な寄附やボランティアで学校の建物を造っても維持することが難しく廃校になってしまったところもあるそうです。そんな中で、ジャイチさんの学校は30年

以上続いていると聞きました。大変なご苦労があったと思います。

今回お会いしたネパールの先生の中に数人、この学校の卒業生がいました。すばらしいことだと思えます。願わくはこの活動がこのままうまく存続し完全にネパールの人による自営の学校になってくれることを祈ります。

あの山の子どもたちの笑顔がそのまま守られますように。

その他の感想として『エベレストの山々はめっちゃキレイだった』とか『ネパールの道路は穴だらけ』とか『カトマンズの世界遺産もなかなか良かった』等々もあります。ジャイチさんの采配のお陰で楽しい旅行ができたことに感謝しています。ありがとうございました。



▶世界遺産バクタブルのタマディ広場にて

カカニ農場が観光農園として一歩前進

カカニ実験農場の有効活用として、地元事業団体によって観光農園を目的とした整備が進められていますが、農作物の栽培実証に合わせて農場内にある施設をリニューアルして、宿泊部屋、食事処や野外テラスなどが出来上がってきました。

規模的には20人程度が利用できるゲストハウス並の施設ですが、ここカカニはカトマンズから約25キロメートルの距離にあつて、朝日のナガルコット、夕日のカカニとも言われている場所で、ガネツシュ、ドルチエラクパなどのヒマラヤ山脈の眺望を楽しみながら静かな時間を



▶リニューアル工事が進む農場内施設（ネパールの南部（温暖地）の人たちの観光受入れを増やしたいと意欲的なオーナー）

を過ごすことができるのではないかと思います。

また、農場の機能として、隣接するカカニ・ブライター学校で始められた給食材料の供給や農業教育の場として活用されることも期待したいものです。



▶ヒマラヤを望める野外テラスで爽やかな空気の中での昼食タイム 今回のツアーで

第24回ネパールの農場と学校訪問の旅予告

- ・日程 11月上旬 6泊8日
 - ・費用 35万円程度
 - ・最小催行 10名
 - ・主催 ㈱西遊旅行
 - ・企画 ジャイチ事務局
- 詳細は次号でお知らせしますが、お問い合わせはジャイチ事務局までお願いします。

事務局だより

▼ジャイチ

- 7月 ・機関紙65号発送
- ・国際交流フェスティバルin Marukoに参加
- 8月 ・第23回JAITIツアー参加者募集開始
- 11月 ・JAITIツアー実施
- 12月 ・理事会 令和5年度上半期業務執行状況の報告
- ・機関紙66号企画・編集

▼ジャイチネパール

- 7月 ・政府機関から卒業試験の結果公表
- ・土地所有権移転事務
- 8月 ・学校夏休み
- 9月 ・両学校へ訪問指導
- ・10月末まで秋祭りのため休校
- ・国民教育の日式典に参加
- 10月 ・JAITIツアーの準備と段取り
- 11月 ・JAITIツアーの受入れ、案内
- 12月 ・バシファント校で学力向上の指導

国際交流フェスティバル イン丸子に参加

昨年7月に上田市丸子文化会館で国際交流フェスティバルが開催されました。

今回は、ワールドキャンパスインターナショナル(WCI)の受入れとして、世界10か国以上から集まった日本に興味関心のある若者たちが、日本各地の都市をホームステイしながら、地域で文化交流活動を行う事業と併せて実施されたもので、ジャイチの出展ブースを訪れた若者の中には、「親がネパール出身なのでとても興味があります」と話してくれた者もあり、当地域では接する機会が少ない外国の皆さんとの交流の場となりました。



▶各国の若者が参加しての国際交流フェスティバル丸子

物故者のお知らせ

カミ・ツェリン・シエルバ様
ネパール・カカニ在住
一三年一〇月

ジャイチの発足当初から事業に関わり、特に実験研修農場の整備にご尽力いただきました。また、カカニ訪問の際には滞在を快く引き受け、家族同様の交流を続けていただきました。

ご冥福をお祈りいたしますとともに、これまでのご支援に感謝申し上げます。

お知らせ

長年事務局に勤務いただいた豊田かずいさんが病氣療養のため昨年6月退職されました。一日も早く治癒されますよう祈念しています。

7月から立科町在住の依田五子さんにお手伝いをいただいています。



▶在りし日のカミ・ツェリンさん(左)隣は土屋興亜農業指導員とK.C氏

編集後記

最近、時の流れるのが速いと感じます。「老人は1日は長いが1年は短い、若者は1日は短いが1年は長い」と表現した著名人もいたようですが、私も老人の域に達したのでしょうか。

特に、昨年は暑い暑いから一気に冬に突入の陽気となり、秋はどこへといった季節感のなさがそう感じさせているのかもしれない。

四季があつてこそ日本の魅力。その魅力を楽しみながら1日1日を大切に過ごしたいものです。

書き損じハガキを送って下さい。未使用も歓迎

年賀ハガキの書き損じ・余りなど...

(古いものでもかまいません)

(切手に交換し、通信費に役立たせていただきます。)

使用済切手も集めています。未使用も歓迎

(切手の周りを5ミリほど残してください)